区分14	専門基礎分野 人体の構造と機能	授業科目名	生理学	単位数	1単位 （30時間）
開講時期	1年　後期	担当教員	井上　靖久	担当教員の実務経験	有・(無)

◆実務経験の内容

◆授業の目的・目標

人体の機能を理解するために人体の構造との相関を理解することが必要である前期の生理学では人体の体内環境、すなわち細胞外液の好適な構築・維持こそが個体としての生命維持に直結していることを学んだ。これに加えて、生理学の後期の目標は生命維持に重要な体液調節を果たす腎機能における排泄と再吸収の役割や血圧調節を学ぶ。このことで特に、体液の水電解質組成、酸塩基平衡および血圧の維持について学ぶ。また、多くの内分泌機能を知ることで人体の恒常性の維持が繊細に行われていることを理解する。最後に神経系が全身を統一的かつ網羅的に身体各臓器と密接に連携していることを学ぶ。加えて各種感覚の特徴にも触れる。

◆授業の概要・授業方針

授業にあたっては「講義ノート」を配布し、これに沿って講義を行う。また適宜、教科書の図表等も用いながら解説する。生理学は臨床検査学にとって最も基礎となる重要科目である。理解を伴わない医学領域の知識は意味をなさないどころか時として危険である。とはいえ、初心者にとってはある程度の「基本用語」を暗記することもまた止むを得ないこととして受け入れなければならない。その上で生命・健康維持のメカニズムを論理的に理解し説明出来ることが求められる。特に、健康状態から逸脱し、疾病に至るプロセスの理解は多くの多岐にわたる臨床科目の克服、ひいては国家試験の突破と専門職に至る近道でもあることを強調する。

◆テキスト・参考資料等

最新　臨床検査学講座　生理学　　医歯薬出版　　および配布「講義ノート」

◆成績評価の方法

期末試験（筆頭試験）

授業計画		チェック欄
第1回	ネフロン	
第2回	糸球体濾過と再吸収	
第3回	水・電解質、酸・塩基平衡の調節	
第4回	視床下部・下垂体ホルモン	
第5回	甲状腺・副甲状腺ホルモン	
第6回	副腎皮質および髄質ホルモン	
第7回	性ホルモンと性周期	
第8回	受精・着床・初期発生	
第9回	神経細胞と神経膠細胞、体性神経と自律神経	
第10回	神経活動と神経線維、シナプス伝達	
第11回	中枢神経　大脳	
第12回	中枢神経　間脳、脳幹（中脳・橋・延髄）、小脳	
第13回	中枢神経　脊髄、伝導路、	
第14回	体性感覚・特殊感覚	
第15回	視覚、聴覚・平衡覚	